



近年、HIV感染者に癌の発症が増えています。そこで、包括外来で、FDG-PETを中心とした癌スクリーニングを2回行いました。

- 1回目の検査で、69名中**4名**に悪性疾患が見つかりました(陽性率; **5.8%**)。しかし、FDG-PETは感度が良すぎ、偽陽性も12名(17%)ありました。
- 2回目は、1.2年間のフォローで、56名中**2例**に癌が見つかりました。100人を1年間フォローしたとすると2.99人に癌が見つかることとなります(**2.99/100人・年**)。
- この結果から、全国の血友病HIV感染者への**癌スクリーニング**を強く推奨しました。この成果と提言は、Global Health and Medicine 2019; 1 (1): 49-54 に報告しました。
- 今回、前回の結果をさらに確実なものとするために、偽陽性が少ないと考えられる**造影CT検査を用いた癌スクリーニング研究**を実施します。